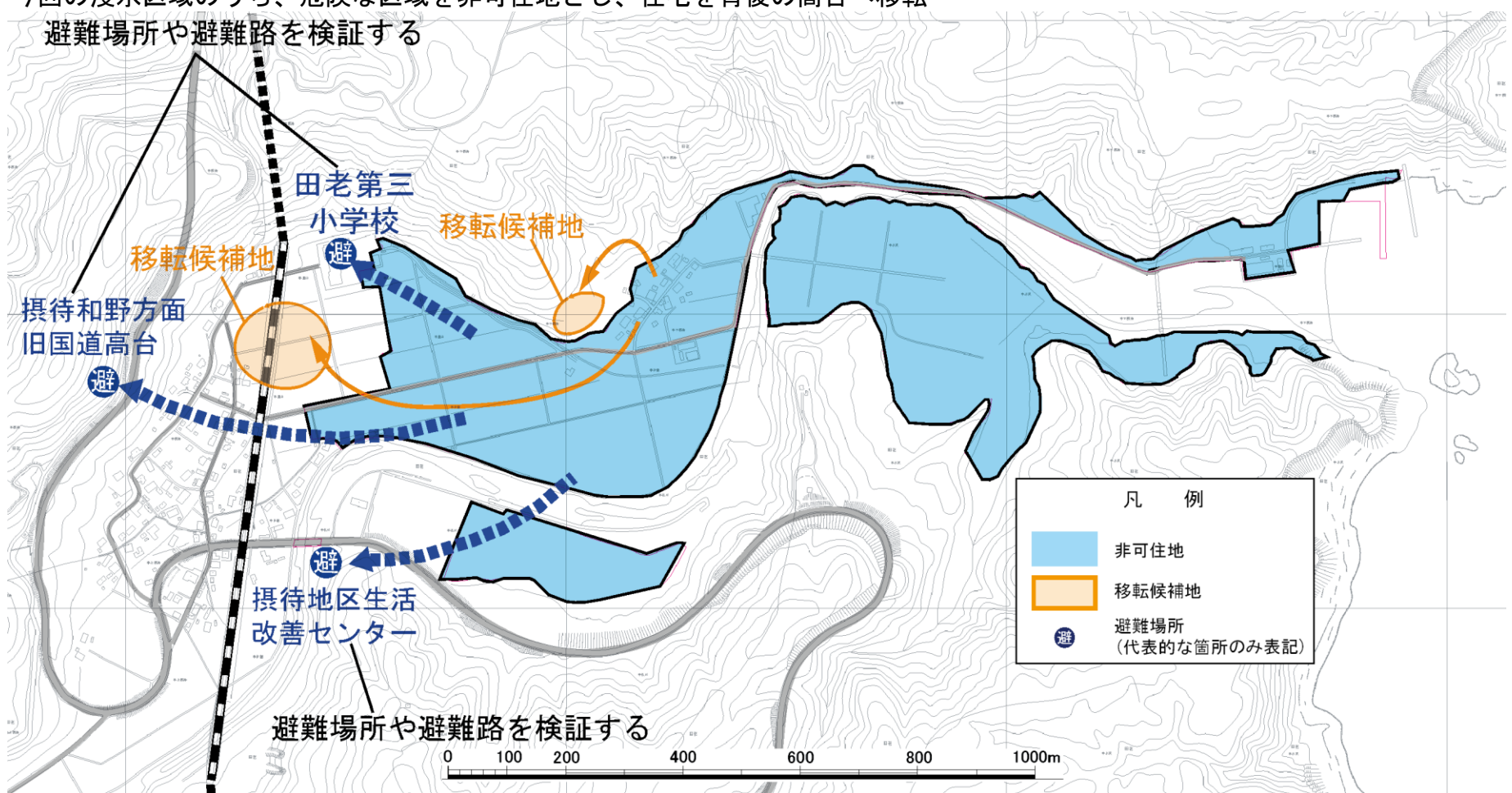


被害の状況	・ 水門が損壊し、漁港、川沿いの低地が大規模に浸水した。 ・ 浸水面積は 60.5ha にわたり、浸水高は TP+8.5~16.5m となり、最大浸水深が 13.4m に達した。 ・ 浸水区域内の建物（住宅以外も含む）の 100% が流失または撤去となる被害を受けた。
復興まちづくりの考え方	・ 住む場所は津波被害を受けない安全な場所に確保する。 ・ 津波到来時も背後の高台への避難を円滑に行えるよう、避難場所や避難路を検証の上、必要に応じ強化・充実を図る。
復興パターン案	今回の浸水区域のうち、危険な区域を非可住地とし、住宅を背後の高台へ移転 避難場所や避難路を検証する  復興パターン案
特徴	・ 住み慣れた場所に近いところへの移転を行う。 ・ 非可住地であっても漁業施設用地としての活用はできるが、住む場所と働く場所が分離することになる。